

各 位

株式会社 エスライングループ本社
(コード番号 9078 東証・名証)

2024年3月期 第2四半期決算発表(参考資料)

連結決算

1. 第2四半期業績の推移

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	
	実績	実績	実績	対前期増減率(%)
連結子会社	19社	19社	19社	
営業収益	23,923	23,779	24,498	3.0
営業利益	565	293	264	△ 9.9
経常利益	637	363	325	△ 10.6
親会社株主に帰属する四半期純利益	436	231	220	△ 5.0

【営業収益は2期ぶりの増収、

営業利益、経常利益は共に2期連続の減益】

過去最高実績

(第2四半期)

(単位:百万円)

営業収益	2020年3月期	24,860
営業利益	2019年3月期	890
経常利益	2019年3月期	918
親会社株主に帰属する四半期純利益	2019年3月期	570

2. 通期の業績予想

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	
	実績	実績	実績	予想	対前期増減率(%)
連結子会社	19社	18社	19社	20社	
営業収益	47,782	48,254	48,065	49,000	1.9
営業利益	1,503	1,314	831	900	8.3
経常利益	1,629	1,431	1,038	1,050	1.1
親会社株主に帰属する当期純利益	971	966	1,446	650	△ 55.1

過去最高実績

(通 期)

(単位:百万円)

営業収益	2019年3月期	49,136
営業利益	2019年3月期	1,687
経常利益	2019年3月期	1,756
親会社株主に帰属する当期純利益	2020年3月期	3,118

【第2四半期業績】

①トラックによる企業間輸送を主とする「輸送サービス部門」は「減収」

- ・貨物輸送量は、生活関連商品の値上げが続いていることによる購買意欲の低下や、ネット通販等のto C物流が増加したことにより、企業間物流の貨物輸送量は低調に推移した。

②商品保管や物流加工を行う「物流サービス部門」は「増収」

- ・過年度に新設した保管施設等による増床効果と、交通アクセスの利便性を活かした保管施設の有効活用により増収。
- ・流通加工業務においても、取引先からの業務移管要請もあった。

③大型商品等の個人宅配を行う「ホームサービス部門」は「増収」

- ・猛暑によるエアコン設置工事が想定を下回る取扱量となる等、白物家電の配送・設置業務が全体的に伸び悩んだ。
- ・昨年9月に㈱クリエイトを子会社化し、東北地区における家電配送網の面の拡大を図った。
- ・引越しサービスにおいて、オフィス引越しを積極的に取り組んだ。

この結果、第2四半期連結累計期間の営業収益は、244億98百万円(前年同期比3.0%増)で増収となった。

利益面では、各種経費の削減と作業効率・生産性の向上に取り組んだが、原油価格の高騰による燃料費の増加や社員の待遇改善をはじめ、求人活動や社員教育費等の人件費の増加、新施設に関する減価償却費や施設使用料等の経費が増加したことで、

営業利益は2億64百万円(前年同期比9.9%減)、経常利益は3億25百万円(前年同期比10.6%減)

親会社株主に帰属する四半期純利益は2億20百万円(前年同期比5.0%減)と減益となった。

【下期に向けた取り組み】

- ・当社の強みである輸送ネットワークと物流サービスをグループ会社が一体となって取り組むことにより、特積み貨物以外の輸送領域として、貸切業務や商品保管から配送までの一貫物流サービスを強化することで、営業収益の拡大と利益率の改善を図る。
- ・10月に子会社化した㈱エムアンドエスコポレーションとともに、関東地区の家電配送業務を強化・拡大する。
- ・2024年問題に向けて、ICカードやデジタルタコグラフ等を活用し、ドライバーの時間管理と作業の見直しを行うことで、効率化と生産性の向上を図る。

3. 設備投資と減価償却費の状況

(単位:百万円)

	2023年3月期		2024年3月期			
	通期実績	対前期増減率(%)	第2四半期実績	対前期増減率(%)	通期予想	対前期増減率(%)
設備投資	1,912	△ 34.3	843	12.2	1,204	△ 37.0
減価償却	1,971	2.8	1,010	2.1	2,030	3.0

※主な設備投資の状況(車両以外)

次期基幹システム改修

以 上